

あいのあふれるまちづくり事業

～ 藍染文化の伝承事業 ～

地域振興課 地域活動担当

1 篠路の藍

明治の開拓初期、篠路（現在の拓北・あいの里地区）では見渡す限りの藍畑が広がっていました。

明治15年、徳島県出身の滝本五郎ら一行がアメリカ式の大規模農場を夢みて、篠路に入植し、困難を極めながらも、払い下げを受けたこの地を開墾しました。

その後、大豆・小豆・ソバ・トウモロコシ等を栽培し、そして滝本五郎の出身地徳島の特産物である藍の栽培も始めました。篠路近辺は、藍栽培に適した肥料（にしんかす 鯨粕）が豊富で手に入れやすく、また、当時は藍の商品性



滝本五郎

もあり、藍染の原料となる藍葉の加工製造（藍玉・すくも）を開始し、明治19年には篠路興産社を設立し、全国に藍玉などを販売しました。明治23年には、同社の藍玉が「内国勸業博覧会」で品質が認められ一等有功賞を受賞するなど、篠路一面に広がった藍畑には、開拓初期における北海道産業のホープとなっ



花を咲かせた藍の葉

た輝かしい歴史があります。

しかし、明治の中期になると外国の安価な化学染料やインド産の藍におされ、藍栽培は全国的に衰退し、いつしか篠路の藍も姿を消してしまいました。

現在では、篠路藍の歴史は、あいの里という地名や興産社の名称（町内会名）、ペケレット沼横の記念碑（しょうとくひ 頌徳碑）に残っているだけですが、平成5年11月「あいの里」に地名の由来を記したメモリアルサインが建立され、篠路における藍栽培の歴史が永久に伝えられることとなりました。



あいの里にある
メモリアルサイン

2 藍染文化伝承事業

滝本五郎の篠路入植から約1世紀を経過して、北区では、藍栽培ゆかりの地で地域の伝統と文化を後世に継承しようと、昭和60年、篠路コミュニティセンターの開設を機に同センター2階に藍染室を設け、藍栽培の歴史を藍染に形を変えて伝承することとなりました。

その後、平成5年には「北区まちづくり懇話会」の提言を受け、藍の文化と歴史を伝承し、新たなまちづくりに生かしていこうと「藍染文化伝承事業」が開始されました。

平成6年には、藍染講座の修了生や地域の藍染サークルが中心となって、篠路天然藍染の普及と発展及び「藍染文化伝承事業」推進への協力を目的に、篠路天然藍染振興会が設立されました。以来、北区では篠路天然藍染振興会と協働して、藍染文化伝承事業を行ってきました。

平成20年度も篠路天然藍染振興会（椎野 栄子会長、会員21人）の協力と、多くの区民や市民の方々に参加いただき、各種事業を行いました。

3 平成20年度事業概要

藍の種無料配布（4月18日～）



北区役所、北区民センター、篠路コミュニティ

センター、屯田、新琴似・新川、拓北・あいの里、太平百合が原の各地区センターの7カ所で藍の種約千袋を区民の方に無料配布し、藍栽培の歴史を伝承するために、実際に藍を栽培してもらい、藍を身近に感じてもらえる事業を実施しました。

藍染作品展示会

・9月12～29日（18日間）

地下街オーロラタウンふれあい広場展示コーナーにおいて作品を展示し、多くの方に北区の藍染文化伝承事業を知ってもらいました。



・10月4～5日（2日間）

さっぽろオータムフェスト2008「第15回札幌大通ふるさと市場」で展示即売会を実施し多くの来場者に、篠路天然藍染の素晴らしさを知ってもらいました。（展示数約754点、販売数306点）



オータムフェスト2008への出展

・10月31～11月4日（5日間）

北区民文化祭で作品展示とチャリティーバザーを実施しました。



天然藍染体験

10月4・5日に実施されたさっぽろオータムフェスト2008「第15回札幌大通ふるさと市場」において、天然藍染を手軽に体験できるコーナーを設置し多くの来場者に体験していただきました。(体験者81人)



北区民文化祭において、天然藍染体験コーナーを設け(10月31日)来場者に天然藍染の素晴らしさを体験してもらいました。(体験者34人)

藍染体験授業



9月に篠路西小学校の6年生(3クラス、130人)10月に新陽小学校の4年生(2クラス、73人)の藍染体験授業の指導をそれぞれ行いました。

天然藍染講座

・天然藍染入門～藍建てと染を楽しむ～

6月から7月(全10回)にかけて第1期の北区民講座として実施されました。

・自然にやさしい藍染～染を楽しむ～

8月から9月(全5回)にかけて第2期の北区民講座として実施されました。



・藍の歴史と藍染体験(高齢者教室)

8月26日に西区高齢者教室(ときわ大学)9月10日に北区高齢者教室(北親大学)で藍の歴史と藍染体験講座を実施しました。



・藍染塾(抜染講座)

2月6日に藍染塾として、一度藍染した布から色を抜き、模様を出す技法の抜染講座を行い、指導者の育成及び技術向上を図りました。